



No. 245	あごら札幌 連絡先 細田 (011) 644-2927	今月通信担当 谷
	《 今 月 の 内 容 》	
本と暮らす... P1. P2	映画es ... P6	
ナステ ... P3	尿管結石 騒動か 思ったこと ... P7	
紅葉の時間 ... P4. P5	情報 ... P8	

2003. 2.15. 発行

通信購読料 1200円 (年間)

🌀 本と暮らす 🌀

小松 ともみ

(23) 「幻色江戸ごよみ」

宮部みゆき 著

新潮文庫 刊

鬱状態がこうも長くなってくると、生活のしかたも行動範囲も、おのずと変化してきます。まず、夜の会合・研究会の類はほとんど出られなくなりました。「これを外したらもう、この人と会うチャンスはないかもしれない」「さすがに、これに出なかったら、あとあとの人間関係構築にひびくなあ」と思われるくらいの重要度の歓迎会・送別会といったものも、月に2回くらいが限度でしょうか、あとで「崇り」がこないように1次会で帰ることになります。

そんなに早く帰って何をしているの? とお思いでしょうが、6時近く(ごくごくたまに6時30分すぎ)に病院を出て、自宅に帰りついたら6時過ぎです。そこで、まず一休みします。この一休みが貴重なんです。その時間帯に横になっていて、夕食はどうしているの?

とお思いでしょうが、病人になってから、すっかり双方の実家に依存しています。ごはんだけは炊きますが、おかずはダンナの実家(3世帯住宅で隣)に火曜・木曜に分けてもらったものを4日間にわけて食べています。週末から月曜は、私の実家

(3世帯住宅で下の階)に手伝いがてら行って、そこで食卓を囲みます。もちろん、双方には食費を入れています。・・・と書いていた矢先、最近、私の実家では食卓を囲めなくなりました。



実母が二度の転倒（座骨骨折・恥骨骨折）で座位保持が困難になり、父が介護に追われているからです。そこで、週末は、わたしが怪しげなものをこしらえたり、外食したりで済ませています。これで、ダンナが料理に目覚めてくれたらいいのだけれど、いまのところは無理のようです。向こうも鬱なので、「作らずにすめば、何でもいい」という感じ。

夕食が終わると、8時30分くらいまではニュースをみたり、軽いTV番組をみたりして、（この頃、ふたりして英語のトレーニングを始めましたが、いつまで続くことやら・・・これが掲載される頃には止めてたりして・・・）無理して起きています。入浴はたいへんに億劫ですが、なんとか週2回のペースで入るように心がけています。こんな日常のちょっとしたことが億劫でしんどくなるのが、鬱の特徴なんです。健康な人には、なかなか理解できないことでしょうか・・・。そして、ふたりして寝る前の菓をのんで、ベッドに入ります。

この瞬間が一日で一番ほっとする瞬間です。そして、この時間帯に読む本が決定的に変わりました。以前は、けっこう硬派な本も長編でも、平日にも読めたのですが、今は「何回読んでも飽きない、どここの部分でもうち止めにできる、ファンタジーか短編集」が定番です。前回にご紹介した「ハリー・ポッター」シリーズもそうですが、この「幻色江戸ごよみ」も私の大事な定番短編集です。

この短編集を読んでもらって、「どれが一番印象的だった?」「どれが一番怖かった?」といった質問をすることは、なまじの「動物占い」「性格判断」よりもかなりの確にその人のことを教えてくれるのではないかしらん、と思うほどにバラエティに富んだ内容です。ミステリー仕立てになっているもの、いわゆる怪奇もの、いろいろあります。つらい幕切れのものもありますが、それでも、どこか、著者の「人間存在全体～いわゆる闇の部分も光の部分もひっくるめて～への視線の温かさ・慈しみ」というものが、ほのかに伝わってきます。この「どこかに救いがある」ところが、いわゆるミヤベ・ワールドの特徴であり、長年にわたって圧倒的な人気を誇る所以ではないかと私は思います。そして、だからこそ、安らかな眠りに入らんとする前のひとときに触れていたい世界なのです。



ナマステ

タカハシヨシエ

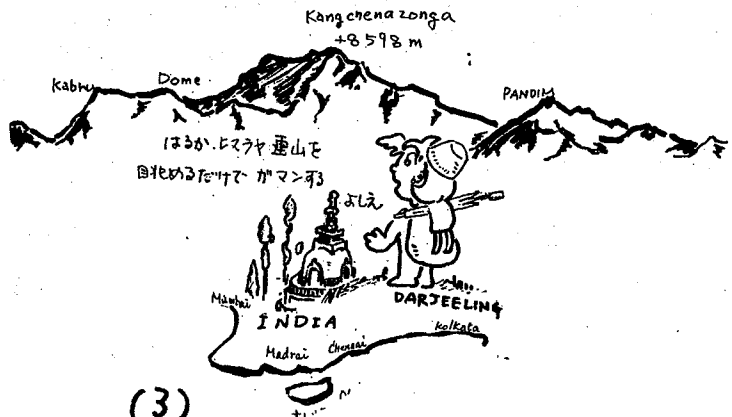
ヒンディー語で、こんにちは、さようなら、おはよう、こんばんは・・・。

インドの旅は、これ1つでスムーズに運ぶ。

今回の私の旅は10月20日成田発、12月3日成田着で、インドのダージリンが目的地。いろいろ寄り道してしまい、ダージリンに着いたのが11月19日。前日のカルカッタでは半袖のTシャツ1枚。夜行列車でニュージャルサイグリに着き、ダージリン行きのバス(ジープやランクル)の出るシリグリまでは汗ダクダク。ラウンドクルーザーが発車してすぐにきれいな茶畑入り、ここがインド、という感じがしない。車はどんどん高度を上げていく。休憩で止まった峠で、寒さに耐えきれず、屋根に拳銃た(車内には荷物を置くスペースはない!)ここで問題①、このランクルにはドライバーを含めて何人乗ったでしょう?)バックパックを下ろしてもらいウインドブレーカーを着こむ。夕方着いたダージリンもやっぱり寒かった。1日目の宿は客引きに連れられて不本意な宿へ。こんなに寒いのに温水シャワーがない! 2晩夜行を乗り継いで、やっとたどり着いたのにシャワーを浴びられない! こんなとき、そんなにきれい好きでない私は黙れだ。明日、ゆっくり気に入ったホテルを探すことにして、まずは腹ごしらえ。ランクルを降りたところがまさにシザール。店はたくさんあるのに、レストランがない。ひとつだけあった軽食屋さんに入る。プーリー(ぎょうざの皮を油で揚げたようなもの)、サモサ(カレー味のジャガイモを小麦粉の皮で3角形に包んで揚げたもの)とチャイ(甘いミルクティー)が今日のディナー。

行き交う人々の中に日本人顔が沢山ある。このあたりにはネパール人、チベット人が多い。私も顔だけでは地元の人にまぎれこめる。ただ、服装がちよっと違っていてすれ違い様ごっこと見られる。はじめは無視していたが、あるとき、手を合わせて(お祈りスタイル)「ナマステ」と言って見た。な、なんとシロッ、がニカ〜に変わり「ナマステ」と返してくれる。髭をはやし、こわ〜顔をしたおじさんたちが10中8、9、ニカ〜、なのだ。わたしはもううれしくなってしまった。夜はもっと寒かった。布団の中に、寝袋を入れて、やっと暖かく眠ることが出来た。翌日はホテル探し。シーツがきれいかな、温水シャワーがあるかな、暖房設備があるかな・・・。チョウラースタ広場があるホテル・ベルビューに決めた。アンティークな薪ストーブがあったのだ。

カンチェンジュンガ
(8586m)の山並みを見
たくてキョロキョロす
るがその日は見えず!



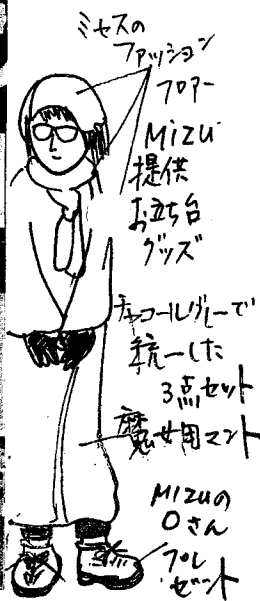
紅茶の時間



寒さ～あこらえてたってますう～♪

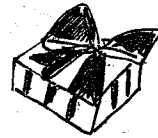
1月18日、米国によるイラク攻撃に反対するピースウォークと集会が持たれ、札幌では400名が参加した。私は準備段階から係わったが、途中からどんどん参加者が増え、デモ届けを書き直すという嬉しい悲鳴であった。世界中の非難を浴びながら、ブッシュ米大統領は耳を貸すどころか戦争への道へと他国も巻き込んでいる。

米国の根深い病根をイラク攻撃にすり替えようとするブッシュ政権の意図を見ると、こちらでも長期戦でじっくり取り組まねばと思っていた。由布院での「基地はいらない！ 女たちの全国ネット」集会で、韓国と沖縄の名護で金曜集会を続けている事を聞き、私も連帯の思いを込めて、札幌の米総領事館前に立つ事にした。米軍基地のある所、暴力と環境汚染、人権問題がつきものである。青木書店発行の「駐韓米軍犯罪白書」は筆舌に尽くし難い米軍の暴行が列挙されている。沖縄も又、基地がある為の悲劇が絶えない。名護のヘリポート基地建設反対で座り込みを続けている真志喜トミさんに電話で伺うと今も昼に浦添市の米総領事館前に来る人は、30名を上まわるとの事だった。韓国と名護と札幌と、同じ思いで立ちましょと励ましあった。



札幌は沖縄と違って零下の日々である。せいぜい20分が立つ限界と考えた。最初の10分は布を広げたり、看板を立てたり、おまわりさんとごちゃごちゃしたりであ

っという間に過ぎる。今まで4回立ったが、初日は立つ人4人。全部女性でマスコミが10名程。2回目は1人。3回目はJRの組合がバス仕立て20名も来てくれた。警官もどっと増えた。4回目は2人。領事館内の米国人らしい人がガードマンと日本の警官に守られて昼食に出る。走って行って「領事さんですか？」と聞くと真赤な顔して「NO!」と答えた。若い人だった。どんな気持ちでブッシュの元で働いているのだろう。話が出来たらいいのに。私は立ちながら大声で話をする事にした。先日落下したコロンビア号には、どうやら核分質が積載されていたと米国の科学者が情報公開を求めている事。ロケット打上げは、地球を支配終わった米国が、宇宙も手中に収め、次は火星への野望へと向かっている事。イラクと米軍の劣化ウラン弾被害など。自己満足かもしれないと思いながら、私の反戦の意思表示として、これからも、1人立ち続ける。



◀ 近頃の若者は – ▶



30代と40代の研究者6名と「チヨムスキー」の勉強会を始めた。高校教諭2名と他は大学院に籍を置く4名である。沖縄の平和に哲学を生かそうとしている沖縄の青年と、「企業内告発と倫理」「遺伝子組替えと倫理」等と法令の関係を研究しているK君だ。論理的思考能力は高いが、実証例は私の方が有ると見た。年食ってるから実験が多いので。面白いことになりそう。



◀ 阪神被災地にいるK君のこと ▶

NHK 特集阪神淡路一を観ていたら、K君が出ていた。北大在学中、泊原発反対行動を共にし、六ヶ所村行動も共にした仲間である。彼はエリートコースには乗らず、自然食の店や東京で市民派のパン屋さんをしたりしていたが、阪神の救援にかけつけ、足腰の不自由な高齢者の為の八百屋さんになっていた。

もうかりまっか？の記者の問いに「食べていくのがやっと。もうけ過ぎてはいけないね。」と、やさしいK君の瞳が、深くなったように思う。彼も6名の勉強会の同期である。これからが楽しみ。ピースウォークでも学生がどんどん参加して来て、次々と行動決定している。日本も捨てたもんじゃないと思えるこの頃である。

映画「es ～エス～」

T

映画「es ～エス～」を観た。ものすごく怖い、怖い、と言われていたので、どんなに怖いのだろうと構えて観に行ったが、たいしたことはなかった。アクション映画の心理実験施設版という感じ。娯楽アクション映画の常道をきちんと踏んで、途中、段々と主人公の助っ人になってくれるキーマンが表れ、主人公と特に親しかった人間が犠牲者になり、大団円は主人公と悪代官との一騎打ち。ラブロマンスもちゃんとハッピーエンドだった。

バカに権力もたせたらどうということになるのかなんて、明らかなんだから、展開を観ていても、私にとってはどうということはない。バカに権力もたせるとどうということになるのは珍しいことでもナンでもない。少なくとも私は自分の育った家庭を見てきているので、何をイマサラという感じだった。映画では、ごく平凡な善良な市民がこんな人でなしに変貌する、ということを表したかったのかもしれないが、現実にはこんな人間はたくさんいる。今の日本の社会ではこんなこといくらでも起きている。それをただ極端にして、デフォルメして描写しているだけだ。権力をカサに女の体を自分の思い通りにできると勘違いしているオヤジ、自分は妻より上にある人間で妻が自分に従うのは当たり前だと思っているので、妻が自分に「口答え」をすると力で黙らせようとする夫、患者の体は自分の思い通りに使ってもいいのだと勘違いして、危険な薬も患者に投与し、今では薬害事件の被告になっているが自分は何も間違ったことをしていないと信じて疑わない医師、etc。。。映画のチラシに松尾スズキという人の「私たちが人間が、同類を憎みあう動物である現実を見せてくれる」というコメントが載っていたが、別に「憎み合っている」わけじゃない。自分が他者より上位の生き物だと思い込んでいる人間は、自分より劣った、自分より下等な者が自分の思い通りにならないことが許せないだけだ。それは彼にとっては「1+1は3」と言われているようなもので、この世にあるはずのないことなのだ。

私も囚人役として同じ状況にいたら、この主人公のように、看守役の勘違いオトコを挑発するだろうなあと思う。この擬似監獄のルールでは、囚人に暴力をふるうことは絶対に許されない、とされているからだ。そして、24時間、カメラで実験の主催者が中を監視することになっているからだ。でも、監視している側がマヌケだったため、その24時間体制の監視というタガが外れてしまうということが誤算だった。その歯止めがなくなればどんなことになるのかなんてははっきりしている。

主人公がとってもハンサム♪ナイスガイだった。それだけでも、観てよかったかなあ♪(恋人役の方は何だか気取ったお芝居で、ちょっといただけなかった。)

この映画はドイツ映画で、アメリカで大ヒットしたということだったが、アメリカ人は「ドイツ人だからこういうことになるのよネ～」なんて高見の見物で面白がって見ていたんじゃないでしょーね？(確かにドイツ人がやってるとリアリティある！って感じなんですけどネ。「秩序を維持するためにやむをえない」なんて台詞が何だかハマる。)ブッシュが、アメリカが、今やっていることが正にこれに該当するんだってことをちゃんと認識しろっつーの。

でも、啓蒙映画としてはとてもいい映画だなと思った。この映画はなるべくたくさんの人に観てほしい。特に若者に。映画が終わって帰るとき、「あゆ」もどきの若い女の子が「こんな怖いのもう嫌だよ～～～」と連れっけの女の子と話しながらほうほうの体で帰って行ったが、「今の政治家のおっさんたちのやりたい放題やらせておくと、日本も戦争に巻き込まれるヨ。そして、軍隊にいるっていうのは正にこういうことなんだよ。」って、言いたいキモチだった。この怖さを忘れずにいてほしいと思う。

尿管結石騒動で思ったこと

—地縁、血縁ではなく女達のネットワーク!—

細田英理子

先日、救急車で運ばれてしまいました。脇腹、右腰・背中あたりに痛み出し、何回か吐きもしたので、とりあえず近くの内科医院に駆け込んだところ、尿管結石だろうと言われました。病院が救急車を呼んでくれて、専門病院（泌尿器科）に移送されました。七転八倒とはまさにこういう事をいうのだと思いました。10回くらい吐いたし・・・。疲れましたー。

激痛はその日で治まりましたが、石が出るまでの1週間は鈍痛もあったり、落ち着かない毎日でした。その間、友達にはずいぶん助けられました。つくづく友達の有り難みを実感！いろいろな友達が心配して、電話したり、訪ねて来てくれました。食事つくってくれる人、買い出しにつきあってくれる人、差し入れ持ってきてくれる人、病院の送り迎えをしてくれる人等々、本当にお世話になりました。特にシングルで暮らしていくには日頃の友達のネットワークが大事だと実感しました。

思えば、何かあったらすぐ駆けつけて助け合うというつきあい方はあごらで学んだような気がします。シスターフッドの精神（あごらに入った頃、よくいわれていた。ナツカシイ!）、地縁、血縁ではなく女達のネットワーク。あごらで培ってきたものは大きいなあと改めて思っています。

お世話になった皆さん有り難う！何かあったら、今度は私がとんで行くからネー。

前号の通信に載せた「女と男のトーク・セッション 2002」聴講記について上野千鶴子さんから感想をいただきました。びっくりしました！多分、お忙しい方なのでこんな小さな通信の内容に一々目を通されているとは思わなかったのです。とても嬉しかったです。

— T —

◆そして、札幌の会員Yさんからの感想もいただきました。↓



その会場に行っていないのに、感想？がびったりです。

わたしたち女には「生きるためのスキル」としてのフェミニズムなのだ！

それを「食うため（飯の種）のスキル」として使わないでくれ！

上野さんに対して100年早いのはもちろん、私に対してだって100年早いよ！



Information



2/22(土) 駐韓米軍による2少女ひき殺しを許さない!

13:30分~ 本願寺札幌別院(中央区北3西19)

Tel) 611-9322

1) ビデオ上映「オモ、米軍基地のない社会で暮らしたい」

会場変更になりました

2) 大隈小学校教諭 中條佐和子さんの韓国集會報告
中條さんは反対集會にも度出席! 写真もあります。

3) フリートーク... 基地と軍隊について等。連絡先 谷 (011-664-0632)

資料代 500円 交通費 カナ 500円

地下鉄 東西線 西18丁目下車の市営バス(北5条線)北5西20下車
JRバス・中央バス(北1条線)北1西20下車

2/27(木) アメリカのイラク攻撃と日本の協力、有事立法、伊藤雅康さん講演

連絡先 吉岡 (733-4755)

18:45 ~ 20:45 北海道クリスチャンセンター(北7西6)

500円

2/28(金) 東アジアの平和交流と連帯活動

韓国・沖縄・日本に駐留する米軍問題

Tel. FAX(854-8538)

都・裕史さん講演

北海道クリスチャンセンター 18:30 ~

500円

あ
と
が
き

1) 古い話(?) 昨年の年越しは楽しかった。家族制度から解放された(見放された)あいらのメンバー4人が、E子さんの、食と食う喋るの文演会! 親きよな、子と母持ちの人もいた。服の話や政治の話、尽きるほど。こんな年越しも又、いいものだった。

チヨムスキーの9.11 Power and Terrorの映画を観た。本で読んだり感動も大きかった。世界中でこんなにも彼の話しに心を揺らしている人がいるのにも驚いた。平和学のT先生が「彼がカトマンズにつけずい講演するのは、大衆がカトマンズから」と言っていた。忌野清志郎の音楽も一世にマッパした。及川ミツ子も、これくらいの思想性がある人はね、Eさん! イスラムの札幌お参りに行った。男と女は別室であった。国際結婚か。男女差別を崩して行くのかも知れません。